

Let's
make!

手づくり小物で季節感を取り入れ、インテリアに温かみを。

リースのある家

冬も本番を迎え、いよいよ年の瀬が近づいてきました。街ではネオンが光り輝くクリスマスシーズンでもあります。家庭の温もりをしみじみと感じる季節だからこそ、今月は「素敵すまいるの工夫」として、クリスマスらしい手づくり小物で季節感を取り入れ、温かみのあるインテリアへ変身させるアイデアをご紹介します。

リースは幸福の象徴

リースは途切れることのない丸い形から「永遠」を意味するもので、起源は古代ペルシャの王家の被りもの。のちに宝石類で飾られて今の王冠へと変遷していきますが、古代ギリシャでオリンピック競技の勝者に月桂樹やオリーブの花冠が授けられたことからわかるように、名誉と勝利、平和のシンボルとして一般の人々の間に広まり、幸福や幸運を呼び込むものとして、誕生日や結婚記念日などに家の壁やドアに飾られるようになりまし。リースの素材は身近にある葉や花、木の実や枝、果物などなんでもOKですが、クリスマスリースの場合は特に常緑樹を使って永遠の命を表現します。トゲのあるヒイラギを使うのは魔よけのためで、こちらは出入口であるドアに取りつけられたようです。

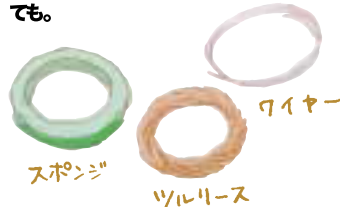
身近な素材を使ったリース作り

リースの土台となるリングは手芸店で購入することができますが、ベースはとにかく輪になるものなら何だっていいのですから、いろいろな素材にチャレンジしてみてください。装飾用の材料は、ドライフラワーやスパイス、どんぐり、松ぼっくり、庭の葉や花など、できるだけ身近で手に入るものを。種類が欲しい時には手芸店で揃えてもいいでしょう。また、吸水性のあるスポンジベースを使えば生花を使った華やかなリースも可能。吸水ベースを使わず、そのまま自然にドライフラワーのリースにするのもおもしろいですよ。大作に挑戦する前に、まずは小さなリースをいくつか作ってみることをオススメ。玄関やトイレ、キッチンなどにミニリースを飾るだけで、とてもかわいく、温かい雰囲気が出できます。

リースの作り方

1 リースの土台を用意

林で採取したツルをくるくる編んだり、わらや小枝をひもで数カ所しばったりする自然素材利用のほか、ワイヤーを巻いたり、段ボールを丸くカットしても。



2 装飾材料の下準備

茎のない素材や補強が必要なものはワイヤリングをするなど、取りつける土台との相性を見ながら下準備をします。



3 素材の取りつけ

土台に直接木工用ボンドで付けていくか、ワイヤリングされた素材をバランスよく結びつけていきます。吸水ベースの場合は茎を短くカットしてそのまま差していきます。



生花を使ったリースのコツ

そのままドライフラワーになるまで楽しみたい場合は、乾燥したときにすぎ間ができないよう、材料の間をしっかりと詰めておきましょう。



超簡単リース!

- 3~4種類の小花を10センチ前後にカットし、各1本ずつを合わせて数束を作ります。花が重ならないよう少しながらワイヤーで結んでいけば、あっという間にかわいいリースのできあがり。